

# ニュースレター 秋 / 冬号

## テキサス日本語教師会

Japanese Teachers Association of Texas (JTAT)

<https://jtat.org/>



### 目次 [敬称略]

pp. 1~2

テキサス日本語教師会会長のご挨拶  
JTAT 会長 ギンサー(植田) 里砂

pp. 2~3

TFLA/JTAT 学会・定例会の報告  
JTAT 会長 ギンサー(植田) 里砂

p. 4

ACTFL/AATJ 学会・定例会の報告  
JTAT 会長 ギンサー(植田) 里砂

p. 4

UT San Antonio 近況と AATJ  
学会報告  
UT San Antonio 福田 真樹子

p. 5

Sakura Network 2025  
Leadership Training  
JTAT 副会長 市川 美和子

p. 6

スピーチコンテスト  
JTAT 副会長 井上 とも子

p. 7

2025 年 JTAT Workshops  
JTAT 書記 福重 佐知子

p. 7

JTAT 日本語プログラム年間行事  
JTAT 副会長  
井上 とも子・市川 美和子

## テキサス日本語教師会 会長のご挨拶

### JTAT 会長 ギンサー (植田) 里砂



2025-2026 年度も半分を迎え、秋学期が終わりましたが、皆様お元気で冬休みを迎えていらっしゃるでしょうか。

秋学期は、学生とつながる学期となったでしょうか。クラスでは、たくさんの笑顔や笑いがあったでしょうか。

1 月より会長として務めさせていただき、早くも一年が経とうとしております。まだまだ未熟ではありますが、役員の皆様、そして会員の皆様に支えていただきながら、ここまで歩んでくることができました。

AATJ (American Association of Teachers of Japanese)の発表によると州別会員数は(合併教師会である Mid-Atlantic、Northeast を除く)カリフォルニア州(101 名)、ワシントン州(79 名)、オレゴン州(56 名)、ハワイ州(54 名)に続き、現在テキサス州は 54 名で第 5 位であることが分かりました。これは大変嬉しいニュースでした。

2026 年度は、広いテキサス各地区でご活躍されている先生方同士の繋がりが生まれる機会をさらに増やしていきたいと考えております。そして、大きな州テキサスをより反映できる団体となれることを願っております。

新春には、テキサス州の先生方とこれからの日本語教育の在り方を考える機会として、Zoom にてお茶会を開催し、春学期には州外の先生方と合同勉強会も開く予定です。

各役員を支えながら、皆様のご希望に応え、互いのつながりをより一層深められるような機会を増やしてまいりたいと考えております。

p.8  
会計からのメッセージ  
JTAT 会計 アンジェラ・ハリス

p. 9  
JET Program & MEXT  
Scholarships  
Consulate-General of Japan  
in Houston  
Coordinator Matthew Klein

pp. 9~10  
Japan-America Society of  
Greater Austin (JASGA)  
Lindsay Makashima

p. 11  
ヒューストン日米協会 (JASH)  
Japanese Outreach  
Initiative (JOI)  
コーディネーター 大芦 舞

p. 12  
Fort Worth Japanese Society  
Harvey Yamagata

pp. 12~13  
SOCALLT 2026 Conference  
Baylor University

pp. 13~14  
J.LIVE Talk  
ベイラー大学 プレフューメ 裕子

p. 14  
おにぎり&もちソーシャルミキサー  
テキサス大学オースティン校  
田中 みどり

pp. 14~15  
30周年記念特別企画会話テーブル  
テキサス大学オースティン校  
田中 みどり

JTAT は会員の皆様なしでは存在できない団体です。2026 年度も、どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、12 月末をもって任期満了となられる大学副会長の市川先生、高校副会長の井上先生、書記の福重先生には、これまでの多大なるご尽力に心より感謝申し上げます。先生方のご支援なくして、今年度の活動は成り立ちませんでした。今後のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

これからも JTAT が、テキサスにおける日本語教育を支え、つなぎ、広げていくための支援の場であり続けたいと願っております。2029 年には、JTAT は 20 周年を迎えます。その節目に向けて、2026 年度も JTAT が、日本語教育を通して人と人をつなぎ、広がりを生み出す支援の場であり続けられるよう努めてまいります。

来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

## TFLA/JTAT 学会・定例会の報告

### JTAT 会長 ギンサー (植田) 里砂

メンバーの方にも多くのご理解とご協力を頂きまして、TFLA (Texas Foreign Language Association) の学会で例年ごとく6つの研究発表を含めた JTAT の学会また定例会を開催することができました。



10月24日(金)と25日(土)にリチャードソンで行われた TFLA 年次学会ではたくさんの先生方において頂きまして、誠にありがとうございました。24日(金)の TFLA の総会や発表にて、他の言語を研究されている先生方とお知り合いになったり、実践できるアイデアを学びました。夜は懇親会が開かれ和やかに先生方皆様とお話して楽しいひと時を過ごすことができました。また、25日(土)は先生方の研究発表により新たなツールや視点を学ぶことができ、テキサスにはたくさんの宝が隠されていると改めて確信した週末でした。発表していただいた先生方、またテーマは次の通りです。

**Exploring AI Tools in Japanese Language Teaching and Learning**  
藤井先生、プレフューメ先生(ベイラー大学) 根岸慎先生(サザンメソジスト大学)

**Introduction to "Yasashii" Japanese Literature from the Intermediate-Low Level**

アンジェラ・ハリス先生(ノーステキサス大学)

p. 15

日本語専攻を仕事へ  
テキサス大学オースティン校  
畑中 淳子・岡田 幸恵

p. 16

今年の文化祭活動のご報告  
能劇への挑戦  
リチャードソン高校  
山村 美保子

pp. 17~18

Exploring Culture and Identity  
with Japanese Music  
Satomi and the Sound (SATS)

pp. 18~19

私の日本語学習の楽しみと夢  
UT Austin & UNT 卒業生  
Lisa Meyer

p. 19

ALT on the JET Program  
UNT Alumnus Gavynn Sanchez

p. 20

新会員のご挨拶  
サザンメソジスト大学 (SMU)  
根岸 慎  
リチャードソン高校  
花木 優芽実

pp. 21~23

JTAT 役員のおすすめ  
JTAT 役員

p. 24

役員選挙結果  
JTAT 会長 ギンサー(植田) 里砂

p. 24

編集後記  
JTAT 副会長 市川 美和子

## From Commercial to OER Textbooks in Japanese Language Education: Applying the 5Rs Framework

クック ちかこ先生

### Supporting Students' Journey in Japanese Learning

ベーカー井上とも子先生 (Morton Ranch 高校) 加藤友夏先生 (Johnson 高校)

### Intersection of culture and language education

竜沢静先生 (オクラホマ大学)、ワー由紀先生 (テキサス A&M 大学)、尾崎直子先生 (ライス大学)

### Evaluating AI Features in EdTech Tools for Japanese-Language Teaching

岡田彩先生 (オクラホマ大学)

### Listening Exercise On the Loop!: Create Topic-Specific Podcast & Questions With AI

福重佐知子先生 (オンライン Independent)

様々なテーマの発表ありがとうございました。

今回は Kinokuni-ya USA, Dallas Mitsuwa Market, そして、Austin Asashi Import 様よりご協力を頂きました。



また、懇親会ではリチャードソン高校の中重美保子先生に大変お世話になりました。10月25日のお弁当は市川美和子先生がお世話してくださいました。たくさんの方のご協力、感謝の気持ちでいっぱいです。



同週末にロサンゼルスにてさくらネットワークのリーダーシップトレーニングが開催されていました。今回は市川先生が副会長として参加して下さって日本語教育のアドボカシーに関しさくらネットワークの会員であるアフィリエイトの代表者の方々と様々な勉強をしてきてくださいました。JTATも責任を持って目標に届いていきたいと思っております。

## ACTFL/AATJ 学会・定例会の報告 JTAT 会長 ギンサー (植田) 里砂



11月にニューオリンズで  
行われた  
ACTFL(American  
Council on the  
Teaching of Foreign  
Languages)に出席いた

しました。次期会長の松崎先生(All Saints Episcopal School)を初め、秋の学会の Co-Director の福田先生(テキサス大学サンアントニオ校)、NJHS 担当の竹内先生(ノーステキサス大学)、川邊(かわべ)先生(サンアントニオカレッジ)、選挙選考委員 プレフューメ先生など JTAT からは AATJ で活躍なさっている先生方がたくさんいらっしゃいます。研究発表をなさった高山先生(ライス大学)もご自分の研究のために参加していらしたワー先生(テキサス A&M) 含めその他多くの州を代表なさる先生方にお会いできました。展示ホールでは AATJ のブースにて日本文化の紹介の折り紙のポチ袋及び水引飾り実演のお手伝いができ来年度の ACTFL はサンアントニオとなることもあって大変勉強になるたる体験でした。最終日の夜 AATJ の総会が行われ、JTAT はドアプライズを提供することができました。当選された先生方はテキサスからのお土産を大変喜んで頂きました。

ACTFL は世界の言語が飛び交っている刺激の多い学会です。展示場にもためになるブースがいくつも並び発表のみならず大変勉強になる素晴らしい機会です。

JTAT として AATJ をお手伝いできるように 2026 年のサンアントニオの参加を今からご計画ください。楽しみにしております!



## UT San Antonio 近況と AATJ 学会報告 UT San Antonio 福田 真樹子



お久しぶりです。UT San Antonio の福田です。皆さまいかがお過ごしでしょうか。2025 年の秋学期から、UTSA は UT Health と合併し、学生数約 42,000 人、教員数約 4,000 人となりました。それに伴い、大学名も UTSA から UT San Antonio に変更されました。学生数が増えたのはとても喜ばしいことですが、その一方で、朝の駐車場を確保するのがかなり大変な状況になっています。

さて、今年から ACTFL で開催される AATJ 秋の学会で、共同ディレクターを務めさせていただいています。プロポーザルの査読やプログラム作成、ランチョンの企画、AATJ ブースでの文化紹介、総会ドアプライズのスポンサー探しなど、学会運営側として初めて多くの仕事を経験しました。慣れないことばかりでプレッシャーもありましたが、その分とても新鮮で、テキサス州の枠を超えて多くの先生方と交流できたことは、大変貴重な経験でした。この共同ディレクターの仕事はあと 2 年続き、来年はなんと地元サンアントニオでの開催となります。学生が中心となるランチョンパフォーマンスや、AATJ ブースでの文化紹介などを企画していく予定ですので、ぜひ先生方のお力をお借りできればと思っています。サンアントニオで、テキサスの先生方にまたお会いできるのを楽しみにしています。

## Sakura Network 2025 Leadership Training 2025年度さくらネットワークリーダーシップ研修 JTAT 副会長 市川 美和子



恩師の齋藤アボット先生より「2025年度さくらネットワークリーダーシップ研修にJTATから代表一名を」というメールを受けました。JTAT役員に問い合わせた後、同日開催されたTexas Foreign Language Association (TFLA) Conferenceで

発表予定がなかった私がJTAT副会長として、参加させていただくことになりました。同日開催のJTAT定例会に参加できず、失礼いたしました。

### 開催概要

研修名: 2025年度さくらネットワークリーダーシップ研修

日時: 2025年10月24日(金)～10月25日(土)

場所: ロサンゼルス

主催: Japan Foundation Los Angeles (JFLA)

目的: 日本語教育に関わる各教師会・団体のリーダーが集まり、課題共有・ネットワーク構築・アクションプラン策定を行う。

### 研修内容

- アイスブレイカー、ネットワーキング
- JFLAによる日本語教育機関調査結果報告
- 各団体発表(在米日本大使館、ACTFL、AATJ、Laurasian Institution、JFLA)
- グループディスカッション(学習者増加・維持、教師確保、リソース活用)
- アクションプラン策定

### 得られた成果

- ネットワーク構築: 各州・地域の教師会代表との交流を通じ、情報交換の基盤を強化。
- 課題共有: 学習者減少、教師不足、予算制約、地域連携の難しさ

- 解決策の方向性: JFLA・AATJ・Laurasian等との協働;効果的なアドボカシー(ストーリーテリング); JFLA グラントや J-LEAP 活用

### JTAT への提案・次のステップ

- アクションアイテム:
  - 学生募集・維持のためのイベント・広報強化
  - 教師確保に向けた J-LEAP・JOI の活用検討
  - JTAT 内でアドボカシー研修の実施
- 報告義務:
  - 2026年4月1日までに中間報告書提出(指定テンプレート使用)
  - 2026年4月11日 Zoom フォローアップ会議参加

### 参考資料:

- JFLA グラント案内
- 各団体のプレゼン概要(ACTFL、AATJ、Laurasian)
- 日本語教育機関調査結果(2024年版)
- Copilotによる要約



### 2026年 JTAT アクション項目

**アクション項目1:** JTATの会員基盤を拡大し、アクティブメンバーの数を増やすとともに、コミュニティ内でのより強い関与を促進する。

**アクション項目2:** 学校や各種プログラムにおける日本語コースの受講者数を増やし、日本語教育を推進する。教育者支援、教師間のメンタリングプログラム、協力体制、地域社会とのつながりの強化、ネットワーキングの機会を拡大、学生を成功へ導く活動(スピーチコンテスト、National Japanese Exam 実施、日本語能力試験(JLPT)会場提供、JETプログラムへのサポートなど)

今後も JTAT の先生方のご協力をお願いいたします。

## スピーチコンテスト JTAT 副会長 井上 とも子

秋学期を無事に終え、メンバーの皆さまも少しほっとされている頃かと思います。

さて、2026 年度スピーチコンテストのハンドブックが公開され、テキサス州大会は 3 月 7 日に開催されることとなりました。



2026 Texas Speech Contest Handbook

### [日程](#)

### [ハンドブック](#)

各地区の運営委員の皆様、また日々教室で指導にあたられている先生方におかれましては、すでに準備を進めていらっしゃるかと思います。

今回のニューズレターでは、TFLA 総会にてご報告しましたいくつかの点についてご案内いたします。

### 2026 年 大学部門がプレゼンテーション形式へ

2026 年大会より、大学部門は従来のフリースピーチ形式から、日本語能力に加え、実社会で求められる 21 世紀型スキルの育成を目的としたプレゼンテーション形式へと変更されます。本変更は、JTAT からの提案をもとに、ヒューストン日米協会との間で継続的に協議を重ねた結果、実現したものです。ご尽力くださった大学部門検討委員の先生方、ならびにこの大きな変更を実施し

てくださったヒューストン日米協会の皆様に、心より感謝申し上げます。

### 2025 年 高校生全米大会について

先だってお知らせしたとおり、オーロラ日本語奨学金基金主催の「2025 年 米国高校生による日本語スピーチコンテスト全米大会」は開催見送りとなりましたが、テキサス州大会の上位入賞者 2 名には、新たな発表の機会が設けられました。

両名は、ヒューストン日米協会およびご担当の先生方のサポートのもと、代替大会として実施された National Speech Contest for High School Students (Yanai Initiative 主催・オンライン大会) に出場いたしました。

### 2025 年 アンケート結果について

2025 年大会終了後、参加者の皆様にアンケートを実施し、多くの貴重なご意見をいただきました。大会運営やハンドブックの充実、会場での生徒への贈り物の心遣いなどに対して高い評価をいただき、心温まるお言葉も多く寄せられました。また、今後の大会をさらに充実させるための建設的なご提案も多数いただきました。参加校の拡大、交通や駐車場の配慮、朝食・昼食や懇親会の実施、さまざまな賞の設置、大学部門の参加範囲の拡大など、さまざまなアイデアが寄せられました。いただいたご意見を参考に、次回大会もより充実したものになることを楽しみにしています。

### 2 年間で振り返って

この 2 年間、スピーチコンテストを担当させていただき、多くの先生方や地域の日本コミュニティの皆様と一緒に活動できたことは、私にとって本当に貴重な経験となりました。困ったときにさっと手を差し伸べてくださった先生方の温かさに助けられたことも、何度も何度もありました。今思い返しても、本当に感謝しかありません。今月で役員任期を終えることとなりますが、これからも皆様と共にテキサスの日本語教育や大会の発展を応援してまいりたいと思っております。

2年間、ありがとうございました。

## 2025 年 JTAT Workshops

### JTAT 書記 福重 佐知子

本年は、オンラインワークショップを通じて、皆さまと三度にわたり貴重な時間を一緒にさせていただきました。どれも大変実りある会となり、ここでそのハイライトを振り返らせていただきます。

#### Online Workshop 01

第一回では、University of North Texas より竹内先生、ハリス先生、市川先生をお招きし、先生方が実践されている協働体制の取り組みや、

“Unlocking the Potential in Japanese Major & Curriculum from Texas” と題した成果についてご紹介いただきました。

カリキュラムの見直しによって、日本語専攻のこれからの学習者数を伸ばし、可能性を広げていく道筋を学ぶことができました。貴重なご経験と示唆に富むお話を共有いただき、心より感謝申し上げます。

#### Online Workshop 02

第二回は、私にとっても大変楽しく、同時に実りある時間となりました。参加者こそ多くはありませんでしたが、その分、一人ひとりがじっくりと FigJam を活用した授業活動を体験でき、学生の興味を惹きつける可能性を肌で感じる事ができたのではないかと思います。

授業中のハンズオン体験が、学習者の日常生活にまで波及し、日本語や日本文化への興味を高め、教室外での継続学習へつながれば、まさに一石二鳥になると感じました。

#### Online Workshop 03

第三回は、Bennington College の吉田育子先生、そして University of North Texas の竹内弥生先生をお迎えし、二部構成で実施いたしました。

前半では、吉田先生より「初級レベルでできる VR と AI (ChatGPT) を用いたアクティビティ」として、VR デバイスや AI を用いた、臨場感あふれる学習環境づくりについてご紹介いただきました。実際の授業事例に基

づいた大変示唆に富む内容で、参加者にとって目を開かされる経験でした。

後半では、竹内先生より「ビジネス日本語の今と AI—日本語爆上げ支援プラン」として、教員アンケートの結果や AI を活用したカリキュラム構築についてお話いただきました。こちらも確かな実践に裏付けられた学びで、まさに目から鱗の内容でした。

#### 来年度に向けて

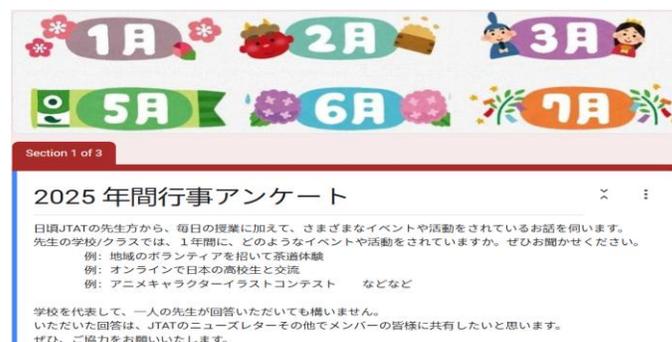
来年度からは、新しい書記の先生がオンラインワークショップの運営を担ってくださる予定です。

私はこれまで、登壇いただいた先生方との準備や調整の会議、そしてワークショップを通じて多くの皆さまと交流できたことを大変嬉しく思っております。

また、役員・理事の先生方の多大なるご支援により、ここまで務めることができました。

この二年間、皆さまにお仕えできましたことを心より光栄に存じます。誠にありがとうございました。

## JTAT 日本語プログラム年間行事 JTAT 副会長 井上 とも子・市川 美和子



2025 年も年間行事アンケートを実施いたしました。

下記のリンクより、ご回答いただいた先生方の学校の年間行事をご覧ください。お忙しい中、ご協力くださいました先生方に、心より感謝申し上げます。

ぜひ、今後の活動や情報共有の参考にしてください。

引き続き、皆さまのご協力を願います。

▶ [年間行事一覧はこちらをクリック](#)

▶ [年間行事写真ははこちらをクリック](#)

## 会計からのメッセージ

### JTAT 会計 アンジェラ・ハリス

テキサス日本語教師会の皆様、カレンダーもいよいよ最後の一枚を残すのみとなりましたが、いかがお過ごしでしょうか。ノーステキサス大学日本語教師のアンジェラ・ハリスと申します。テキサス日本語教師会の会計を務めさせていただいています。

今年の日本語教師会の財政状況に関して、報告いたします。

まずは、教師会のメンバーシップは今年の12月を以て、54名となりました。その中に、新しく会員となってくださった方が4名いらっしゃいます。

一年\$16.50のメンバーシップ料をいただきまして、合計\$891を集めることができました。このメンバーシップ料から、勉強会で発表なされた先生方の謝礼金;学会の登録費、宿泊費、交通費の援助;そしてテクノロジー関係(Zoomやウェブサイトなど)の費用をサポートすることができました。会員の皆様のサポートをいただきまして、誠にありがとうございます。これからも、皆様に頂いたメンバーシップ料を通して、有意義なイベントやリソースをオファーできるよう、最善を尽くしていきたいと思っております。

メンバーシップ料についてですが、今年は一ツ大事なお知らせがございます。AATJのメンバーシップ料が、2026年から上がる事となりました。**2024年12月31日までにメンバーシップの更新を済ませられた方は、今年も今までと同じ\$16.50(JTATのみの場合)か\$50(AATJとJTATの場合)の価格になります。ただし、2026年1月からメンバーシップの更新を行う方は、新しい価格の\$20(JTATのみ)、そして\$60(AATJとJTAT)となります。**ですので、12月31日までにAATJのメンバーシップの更新をなさり、またはJTAT会計のハリスまでにJTATのメンバーシップの更新についての連絡をくださると2026年のメンバーシップ料が安くなります。大変恐縮ではございますが、ご理解いただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それから、会長のギンサー先生、副会長の井上先生、書記の福重先生のご尽力のおかげで、Japan Foundationからグラントを二ついただくこととなりました。Japan FoundationのJapanese-Language Education Project Grant – Sakura Networkから、\$1970.46を頂きまして、勉強会で発表なされた先生方への謝礼金;TFLAの秋の学会およびJTATの定例会に参加なされた先生方への登録費、宿泊費、交通費;そしてテクノロジー関係(Zoomやウェブサイトなど)の費用に使うことができました。なお、ただいまテキサス州日本語スピーチコンテストのために同じJapan FoundationのJapanese-Language Learners Event Grantから\$1,000頂く事となりました。このグラントを使い、審査委員の方や参加する学生の先生方のために少しでも参加の負担を減らすことができれば、と考えております。

今年の財政状況の詳細については、以下の表をご参考ください。

Cash Balance Forward (December 2024)	8,195.78
<b>Receipts</b>	
Membership Fees	891.00
Grants	1,970.46
<b>Receipts Total:</b>	<b>3,861.46</b>
<b>Expenses</b>	
SIG Workshop Honoraria	-510.00
State Speech Contest	-190.00
TFLA Annual Fall Conference	-1717.00
AATJ General Meeting at ACTFL	-679.26
Technology	-625.21
Administrative	-40.47
<b>Expenses Total</b>	<b>-3761.94</b>
Net Receipts	99.06
<b>Cash Balance Forward (December 2025)</b>	<b>8,295.30</b>

今年は、JTATの会計として務めさせていただき、誠にありがとうございました。まだ未熟で、至らぬ点多々あったかと存じますが、今後とも何卒宜しくお願い致します。

## JET Program & MEXT Scholarships

Consulate-General of Japan in Houston  
Coordinator Matthew Klein

Greetings, JTAT members. Thank you for the opportunity to share information about consulate activities.

The 2025 JET Program potential upgrade period is drawing to an end this month. Across the annual cycle, our consulate sent a total of 50 new participants to work in school districts and local government offices across Japan. As an odd statistic, nearly half of the participants from our consulate were matched to placements in the Kinki region or Kyushu. While the challenges of winter and being away from family during the holidays can make this a difficult time of year for new participants, we hope that they are settling into their professional roles and life in Japan with warm support from their local communities.



For the 2026 JET Program, the application period ended in November with JET Program USA receiving a large pool of submissions from candidates across the country. We look forward to speaking with strong applicants from our region at the interviews, with the goal of selecting excellent representatives for the 2026 JET Program cohort.

A large part of our recruiting success is thanks to the contributions of Japanese teachers. The statistics from our annual marketing survey reveal a clear picture. When applicants are asked where they learned about the program, the number one response each year is not from information sessions, career fairs, or even former JET Program participants—it is from university professors. We

sincerely appreciate your ongoing effort to share information about the program. We would be glad to provide pamphlets, posters, or informational presentations to support you.

Turning to the MEXT Scholarships, the application period for the 2026 Japanese Studies MEXT Scholarship is approaching. This annual scholarship is open to current undergraduate students majoring in Japanese language or culture fields. The application period opens in January, and applications are due in February. Successful candidates are sent to Japan for a one-year period from September or October to study either culture or language at a university. Strong language skills are required, as the scholarship courses are all taught in Japanese. The scholarship is very generous and offers full tuition, a living allowance, and airfare to and from Japan. For the full details and application forms, please direct students to the Government Scholarships section of our Consulate website or to contact me directly.

We sincerely appreciate the role you play as ambassadors for Japan in your communities. For any JET, MEXT, or consulate questions, please freely contact me email at [JETcoord@ho.mofa.go.jp](mailto:JETcoord@ho.mofa.go.jp) or by telephone at (713) 652-2977 ext. #2114.

Matthew Klein  
JET Program and MEXT Scholarship Coordinator  
Consulate-General of Japan in Houston

## Japan-America Society of Greater Austin (JASGA)

Lindsay Nakashima

The Japan-America Society of Greater Austin (JASGA) is honored to share an update on our growing Japanese-language education programs and our continued commitment to supporting Japanese language learners of all ages across Texas and the United States. As one of the 41 Japan-America Societies in the United States, we are proud to uphold our mission of strengthening U.S.–Japan relations through language learning, cultural programs, and educational outreach.

Over the last several years, JASGA has invested deeply in expanding and modernizing our language

curriculum. In 2023, we adopted *Marugoto* at the A1 level—both *Katsudō* and *Rikai*—and since then, our program has grown significantly. By the end of 2025, we have fully transitioned our legacy courses (previously using *Genki*, *Japanese for Busy People*, and *Tobira*) into a complete *Marugoto*-based sequence through the B1 level. We continue to offer a JLPT N2 preparation course for advanced learners. All JASGA classes are held online and are open to learners anywhere in the United States.

### Program Growth and Youth Offerings

We are excited to share that our Youth Academy now provides two continuous years of A1-level instruction for learners ages 9–14. As many young Texans do not have access to Japanese programs in their public schools, our online format allows us to fill an important gap. We hope our youth courses will encourage and support the next generation of global citizens who wish to connect with Japan.

Our instructor team has also expanded, bringing in talented educators from across the United States and Japan. This diverse instructional community allows us to maintain high standards while providing learners with rich cultural insights and authentic communicative practice.

### What Makes Our Program Special

At the core of our curriculum is the Communicative Language Teaching (CLT) approach. Lessons emphasize real-world communication, cultural context, problem-solving, and interaction rather than rote memorization. Students regularly engage in role-plays, collaborative activities, and practical scenarios that prepare them to use Japanese naturally and confidently.

Our curriculum follows a clearly structured “**20 Steps to Fluency**” model. Much like earning belts in martial arts, students always know where they are on the pathway and what mastery at the next level looks like. By the second year, learners transition fully out of romaji and build literacy in hiragana, katakana, and kanji.

We use *Marugoto*’s online Level Check Test to help students determine placement. To support deeper learning, we have grammar supplements to our

lesson slides and store all materials in the CANVAS learning management system, providing a space for self-paced study between weekly classes.

### Responding to National Challenges in Japanese Education

We are aware of the recent national concerns regarding federal funding cuts to Japanese language and culture programs, as highlighted in AATJ’s October 2025 survey. As a nonprofit organization, JASGA is committed to doing our part by expanding accessible youth and adult course offerings, especially where public schools may face limitations. We firmly believe in the value of strong school-based Japanese programs and hope to complement—not replace—the work of Texas educators.

To further support local schools, we have applied for a Japan Outreach Initiative (JOI) Coordinator, who would be able to collaborate with public and private schools in the Austin area and assist Japanese language teachers with cultural events and classroom enrichment.

As we look ahead, we remain committed to continual improvement—the *kaizen* spirit. One of our next goals is to build clearer equivalency guidance (e.g., identifying where *Genki II* students should enter the *Marugoto* sequence) so that learners coming from different backgrounds can transition smoothly into our program.

JASGA is grateful for the collaboration and dedication of JTAT and its members. We are proud to be part of a community that celebrates the joy of learning Japanese and strengthening the ties between Japan and Texas. We look forward to continued partnership and shared efforts in supporting learners statewide.



## ヒューストン日米協会 (JASH) Japan Outreach Initiative (JOI) コーディネーター 大芦 舞

テキサス日本語教師会の皆様、初めまして。今年8月からヒューストン日米協会 (JASH) に Japan Outreach Initiative (JOI) コーディネーターとして派遣されました大芦舞と申します。JOIとは、国際交流基金とローラシアン協会に共同支援をされているプログラムです。私たち JOI コーディネーターは、派遣先のコミュニティにて草の根レベルで日本文化紹介や交流イベント活動を行っております。

派遣されてまだ3か月ですが、ありがたいことにいくつかのヒューストンやケイティ ISD の日本語クラブや学校の先生の依頼を受け、10月と11月におにぎりアクションキャンペーンのためおにぎりワークショップを高校3校で行いました。



初めておにぎりを作った生徒も、いざ作りはじめると三角やハート形など、多種多様なおにぎりを熱心にとって見せてくれました。さらにおかわりがしたい生徒や、もっと日本文化を知りたいという生徒の声もあり、私自身次の訪問がとても楽しみです。

また学校訪問以外にも一般向けの JASH のイベントでは、11月には浴衣着付け体験や折り紙、12月はミニ門松工作や墨絵など、多くの方々に日本文化に触れて学べる機会を提供しております。



ご担当の授業やクラブに協力できるとありましたら是非、大芦 ([moashi@jas-hou.org](mailto:moashi@jas-hou.org)) までお問い合わせください！遠方でもご相談に乗ります。また、JASHでは日本文化紹介のイベントを通じて生徒の皆様にもボランティアの機会も提供していますので興味のある方はお知らせください。

2026年1月10日には、Levy Parkにて恒例のお正月イベントを行います。エンターテイメントやブースでの催し、毎年人気な餅つき体験などを通じて豊かな日本のお正月体験ができるよう準備しております。お正月の詳細を含む JASH のイベントについては、ウェブサイト ([jas-hou.org](http://jas-hou.org)) に随時更新されますので、ぜひご覧ください。



2年の任期の間、JASHのプログラムやイベント、また学校訪問を通じて多くの JTAT 会員の方々や日本語を学ぶ生徒さん方にお目に掛かれることを楽しみにしております。今後ともよろしく願います！

## Fort Worth Japanese Society Harvey Yamagata



The Fort Worth Japanese Society was established in 1984 to build friendship and understanding between the people of Japan and the United States through education, exchange, and community engagement. FWJS is composed of more than 300 members, including Japanese nationals, Japanese Americans, and Americans who have an interest in Japan. The Society provides its members with the opportunity to learn about Japanese culture and to socialize and network with community members with similar experiences or interests. Many of our activities are conducted at our own building located at 3608 Park Lake Drive, Fort Worth, Texas.



We have monthly luncheons which are open to the public and we welcome anyone interested in learning more about us. Other activities include: Kurumi Ningyo (Japanese crafts), Dondoko Taiko (drum group), Classical Japanese Dance, Ikebana, Japanese Tea



Ceremony (Ikebana and Tea Ceremony are conducted in association with other groups specializing in these activities), Japanese Language Class, and Wakabakai (Ladies group).



To preserve the Japanese American experience in Texas, we recently produced two documentaries, "Japanese Americans of North Texas" and "Japanese American Influence in Fort Worth." Both of these videos can be found on our website, [www.fwjs.org](http://www.fwjs.org) or on YouTube under "fortworthjapanesesociety."

If you are interested in learning more about us, please visit our website at [www.fwjs.org](http://www.fwjs.org) or send us an email at [inquiries@fwjs.org](mailto:inquiries@fwjs.org).

## SOCALLT 2026 Conference Baylor University



*Hosted by Baylor University, Waco, Texas*  
Department of Modern Languages &  
Cultures and Interactive Media & Language Center  
Theme: "From Chalkboards to Chatbots: Rethinking Language Education in the Age of AI"  
Dates: Friday, April 17 – Saturday, April 18, 2026  
<https://sites.baylor.edu/socallt2026/>

## Call for Proposals: [bit.ly/cfpsocallt26](https://bit.ly/cfpsocallt26)

Submission Deadline: January 31, 2026  
(notification by February 7, 2026)

The conference will be hybrid — in person at Baylor University's Interactive Media and Language Center (Draper Academic Building, 3rd floor) and online.

Registration includes a one-year SOCALLT membership, meals, and refreshments.

### Registration Deadline: March 31, 2026

Conference registration (presenters as well) –  
Deadline: March 31, 2026

Registration includes a one-year membership, breakfast, lunch, coffee, etc.

Full F2F: \$60 (non student/non K-12 2 days)

Full online: \$45 (non student/non K-12 2 days)

Full Student/K-12 Teachers (F2F or online): \$30 (2 days)

One-day F2F: \$35 x (non student/non K-12)

One-day online: \$25 (non student/non K-12)

One-day Student/K-12 Teachers(F2F or online):  
\$20

Vendor: \$100

Sponsored by

Contact: Interactive Media & Language Center imlc@baylor.edu 254-710-4526	Conference Host: Hajime Kumahata Senior Lecturer in Japanese Director of Interactive Media & Language Center hajime_kumahata@baylor.edu 254-710-2635
--	--

Prof. Kumahata, Director of Baylor's Interactive Media and Language Center, has been working diligently to make the 2026 SOCALLT (South Central Association for Language Learning Technology) Conference possible, and we hope many language teachers will present or attend.

## J.LIVE Talk

ベイラー大学 プレフェューメ 裕子

ベイラー大学の日本語プログラムの学生たちが、このたび Washington, D.C. にある ジョージワシントン大学 主催の全国規模の日本語プレゼン大会 J.LIVE Talk で優れた成果を収めました。J.LIVE Talk は TED トーク形式の日本語プレゼンテーション大会で、大学生や高校生が日本語力や表現力を競う場として知られています。各部門から 3 名だけがファイナリストとして D.C. の決勝大会に招待される、非常に狭き門です。



2025 年 11 月 9 日に開催された第 10 回大会の College II 部門決勝では、Senior で Biology major の Elliott Fujinami が“わたしたちをつなぐもの・Discovering What Connects Us”をテーマに銀賞（賞金 200 ドル）を受賞し、Senior で Anthropology major の Santiago Minjares が“文化を通しての共感・Empathy Through Culture”で銅賞（賞金 100 ドル）に選ばれました。さらに、準決勝に進出した Baylor の学生は以下のとおりです。



### College I:

William Jones (Senior, Chemistry Major)

Joshua Selvester (Junior, Chemistry Major)

### College II:

Nicole Adams (Junior, History/Political Science Major)

### College III:

Noe Baker (Junior, Biology Major)

J.LIVE Talk の決勝に進むことは一人でも難しい中、二人が選ばれたことは本当に嬉しく、誇らしい成果です。決勝に進んだ学生たちは、通常授業とは別に、自分たちでスライドを作り、発表の練習を積み重ねてきました。その努力がしっかり実を結んだことを、心から喜ばしく感じています。



## おにぎり&もち ソーシャルミキサー テキサス大学オースティン校 田中 みどり

このイベントは、2025 年春学期に初めて開催した親睦企画です。目的は、普段あまり交流する機会のない日本語のクラスの学生同士が、おにぎりや餅を楽しみながらカジュアルな雰囲気の中で会話し、縦横のつながりを深め、日本語学習コミュニティを広げることにあります。

当日は、日本語プログラムの教員だけでなく、留学プログラムやテストセンターなど、通常は接点の少ないスタッフにも参加いただき、日本語専攻、留学プログラム、奨学金、JNHS などに関する情報を学生に共有する機会も設けました。教員全員の協力により、100 名以上の学生が参加し、大変有意義なイベントとなりました。

その成功を受け、秋学期にも「おにぎりアクション」と連携し、第 2 回目の「おにぎり&もち ソーシャルミキサー」を開催しました。前回を上回る参加者が集まり、イベントは大成功をおさめました。外国語教育の将来が懸念される中、学生たちの日本語学習に対する高い関心度、意欲、熱意、そしてエネルギーを強く感じ、教員一同にとっても大きな励みとなりました。

## 30 周年記念特別企画会話テーブル テキサス大学オースティン校 田中 みどり

当プログラムでは、毎学期「会話テーブル」「多読クラブ」「JLPT クラブ」「読書会」の 4 の課外活動を推奨しています。その中でも、会話テーブルは 1995~1996 年度にネルソン教授とオースティン在住の日本人ボランティアによって、大学生と地域市民の交流を目的に創設され、今年で30周年を迎えました。

過去30年間で担当者や運営形式など多少変化し、現在は学生オーガニゼーションである「日本協会」が責任を持って運営しています。日本語だけではなく英語学習者のための英語の時間も設けられています。会話テーブルはクラブ活動の中でも参加者数が最も多い人気の高

また、今回の決勝で他大学の優秀な日本語学習者と交流できたことは、二人にとって大きな刺激となり、これからの日本語学習への新たな励みにもつながったようです。J.LIVE Talk は、日本語を使って自身のメッセージや興味のあるテーマを観客に伝えることができる貴重な機会でもあり、今後さらにテキサス州の高校や大学から挑戦してくれる学生が増えることを願っています。



(Left to right): Elliott Fujinami, Dr. Yuko Prefume, Santiago Minjares

J.LIVE Talk

<https://eall.columbian.gwu.edu/jlive-talk>

い活動であり、教室で日本語力が向上している学生は、この会話テーブルに継続的に参加しているケースが多く見られます。この秋学期には週3回、そのうち2回は対面、1回はリモートという形式で実施されました。

ということで、先日30周年を記念した特別企画の会話テーブルを開催しました。イベントでは、まず会話テーブルのリーダー達が日本語を使ったゲームを指導し、その後、参加者全員でお祝いのケーキを楽しみながら日本語で自由に会話しました。日本協会の協力により、当日は約50名が参加し、活気に満ちた素晴らしい交流の場となりました。



このような節目を祝うイベントは、活動の継続を促すだけでなく、新たな意欲を生み出す効果もあります。今後も、さまざまな特別企画が実施できればと考えております。

## 日本語専攻を仕事へ テキサス大学オースティン校 畑中 淳子・岡田 幸恵

### 日本語専攻を仕事へ (Turning a Japanese major into a Career)」卒業生を招いての講演会を実施

テキサス大学オースティン校では、9月に当校の日本語専攻と国際関係の卒業生で現在地元オースティンにある日系企業「テクセンドフォトマスク株式会社(前:凸版印刷)」に勤めるミッシェル・ギレンウォーターさんを招き、在校生に日本語専攻を活かした就職活動と現在の仕事内容(運営と翻訳通訳のスペシャリスト)について

話してもらいました。在校中には、日系レストランでのアルバイトで日本語を磨き、日本人コミュニティでの活動にも積極的に参加するなど、実際に彼女がやったこと、そしてやった方が良かったと今思うこと、就職活動中のネットワークの広げ方など具体的な経験についてのお話に、在校生も聞き入っていて、トーク終了後のQ&Aの時間では、学生からの質問が止まりませんでした。今後も他の卒業生の話が聞ける機会を設けていきたいと思えます。[畑中]



2025年秋学期から新しくJPN326 Business Japaneseのクラスが開講されました。昔はあったクラスだそうですが、ビジネスに興味関心がある学生が増えているということで13年ぶりに復活しました。このクラスに先ほどのミッシェルさんをゲストスピーカーとしてお呼びし、今度は同じ内容を日本語で話していただき、就活体験や現在の仕事の内容などをクラスの学生に共有していただきました。学生は興味深くお話を聞いていて、発表の後も多くの方が質問をしていました。やはり同じ大学で日本語を勉強していた先輩から生の声を聞いて、感化された学生が多かったように思います。課題として話を聞いて考えたことをまとめる宿題を出しましたが「敬語や日本の仕事文化が勉強できるので今このクラスを取っていてよかった」、「今のうちにやっておいた方がいい事が知れてためになった」などの声が確認できました。好評だったため来学期もゲストスピーカーのセッションを続けていきたいです。[岡田]

## 今年の文化祭活動のご報告

### 能劇への挑戦

リチャードソン高校 山村 美保子



「過去、2年、日本のおもちゃ、折り紙、華道、茶道、書道と行ってきた文化祭。今年は何をしようか？ 何がしたい？」 そんな問いかけから、AP/JP3 Advancedの文化祭プロジェクトがスタートしました。今年に限られた2週間(全5回の授業)で作品を仕上げなければならず、クラス全員で相談しながら進めていきました。

まずは日本の伝統芸能への理解を深めるため、歌舞伎・狂言・人形浄瑠璃・能について各自が調べ、ミニプレゼンを実施しました。基礎知識をしっかりと身につけたうえで、今年の演目として能劇に挑戦することが決まりました。

物語の概要づくり、セリフの検討、配役決めを経て、練習期間はわずか一週間。さらに衣装と能面をつけてのリハーサルを2回行い、短期間ながらも集中して取り組みました。本番では、招待客の前で堂々と演じ切り、生徒たちの努力が感じられる素晴らしい舞台となりました。

感謝祭明けには、次のステップとして「日本の伝統文化」をテーマにした\*\*AP試験形式の2分間スピーチ(Cultural Perspective Presentation)\*\*に取り組む予定です。今回の経験をどれだけ活かせるか、今からとても楽しみです。

## Noh Performance: "The Mask Speaks"



### お面は語る Omen wa kataru

Date: Thursday, November 20, 2025

Time: 12:30 - 12:55 PM

Location: Room B113

Performed by: AP Japanese & Japanese 3 Advanced Students

### About the Performance

Step into the world of Noh, Japan's centuries-old classical theater. In *The Mask Speaks*, each mask reveals a human emotion — anger, sorrow, joy, and tranquility. Through quiet movement, chanting, and stillness, students bring these emotions to life, expressing the spirit that lies behind each mask. Come and experience the beauty of silence, simplicity, and emotion that defines the art of Noh.



[能舞台紹介](#)

## Exploring Culture and Identity with Japanese Music Satomi and the Sound (SATS)



Who I am:

I am Alyse Satomi Hokamp, a *san-sei* Japanese American, born and raised on Oahu (Hawai'i). I came to Denton, TX to study flute performance at the University of North Texas in 2007.

Now, I am a professional musician and performer. I perform regularly as a flutist, organist, accordionist, singer, and dancer (depending on the occasion).

Setting the stage:

When I started my band *The Pan-Tones* in 2022, I wanted to play “cool flute music.” I wanted to play my flute, but have it be groovy and fun, not stiff or academic. I wanted people to hear the flute out in the wild at a restaurant or festival, not just in the concert hall.

We began with Andean flute music, branched out to other Latin styles, and then expanded to other flute music and areas of personal interest. One of those areas was Japanese music, so we added some nostalgic J-pop and anime music to our set.

Bright idea:

Since we had learned about 20 minutes of Japanese music, I thought, “What if we expand this and present ourselves as a Japanese band?” We learned a few more songs and adjusted the marketing angle. That was the beginning of *Satomi and the Sound* (2024).

Becoming Satomi:

It felt odd to present myself as a Japanese singer.

First, I never felt very “Japanese” growing up, because there are so many Japanese Americans, so I was never self-conscious of my background. In Hawai'i, we sort of distinguish the local Japanese from the many Japanese tourists that come to visit.

On top of that, I didn't grow up speaking Japanese (I only knew a few words from my grandma, like “*abunai!*”), though I did later study Japanese in college and abroad.

Finally, in college I was trained as a classical flutist, and only recently began my vocal training. Basically, I didn't feel Japanese or like a singer!

Nonetheless, I created the “package” for my project-recordings, photos, and website, and shared them with organizations in the DFW area.

I am very proud to have represented my cultural and musical heritage with *Satomi and the Sound* at the Dallas Asian American and Pacific Islander (AAPI) and Dragon Boat Festival, the University of North Texas, and Panda Fest in Dallas and Austin.



Digging through the past:

As I researched Japanese music, I recalled some unique musical experiences from my upbringing.

- 1) Growing up hearing the song “*Sukiyaki*” (上を向いて歩こう) on the oldies station in Hawai'i, which my dad always played in the car.
- 2) Playing the flute in the orchestra for *Uta Matsuri*, a three-hour long extravaganza of mostly Enka music and Japanese dancing in Hawai'i.
- 3) Insisting we watch the *Kohaku Uta Gassen* on the Japanese channel on New Year's Day (instead of football).
- 4) Discovering J-pop, Japanese fashion magazines, and Japanese TV shows in high school.

## 私の日本語学習の楽しみと夢

UT Austin & UNT 卒業生

Lisa Meyer



子供の頃、私は学習本に取り組むことが好きでした。30代になり日本に興味を持ったことをきっかけに、再び大学に戻って、真面目に日本語を勉強し始めたのです。

その頃、JLPT試験について聞いた時、挑戦してみたいと思いました。最初はN4、その後N3を受けました。N2を受けた時に少し、ハードルがあり、1点足りなくて不合格になってしまいました。次の年には是対合格したいと思い、幸いなことに、成功できました。

その後、N1を目標にし、15年経った今も毎年挑戦を続けています。つまり、N2の試験に受かった以来、毎年N1を受けて、夢を持ちつづけ、合格の認定書を待っております。

実は、先日コロラド州で、もう一度本当に頑張ってN1の試験を受けました。試験の対策として、N1のテキストの多くの問いを解き、対面とネットのクラスにも参加していました。「N1に合格する!」という夢が叶うのをずっと待ち望んでいました。この数年間で、私はN1受験のベタランになってきていると感じたし、他の受験生より、受験経験が豊富で有利かもしれないが、実際そうでもありませんでした。

先日の試験では最初に漢字、文法、言葉の文書の順番の後、読解では順調に解けたと感じました。本当に嬉しかったです。しかし、最後の聴解では集中力が続かず、解答用紙には答えの番号を何回も変更して、不安が残りました。N1の合格には日本力ばかりではなく、集中力も必要だと思います。土曜日の対面のクラスの恭子先生からN1の試験の不合格の結果をいただいた後に、何年間も「七転び八起き」「正直の元」「失敗は成功のもと」などの励ましの言葉をEメールで、送っていただきましたが、それから10数年後にはその優しい言葉は少なくなってきました。このような長い間に、どんな言葉をかければ良いのか先生も戸惑っていたのかもかもしれません。



I included each of those experiences in my musical choices for SATS. Sukiyaki is the ultimate 懐かしい song. *Enka*, which I love, was a must. Something about it is so iconically Japanese. A little of Joe Hisaishi's music from Studio Ghibli films, and some old school J-pop from when I discovered it (thanks to Napster).

Embracing the in-between:

When I left Hawai'i for college, I suddenly became self-conscious of my heritage. No one ever thought of me as an "Asian girl" in Hawai'i, because the majority of people there are Asian.

But, I wasn't the same as the Asians that were from Asia- I didn't look or dress the same, and I couldn't speak the language, so I didn't quite fit in with them.

It took me many years to untangle the mishmash of culture I was raised in. For example, at sushi restaurants in Hawai'i, you often see "ahi nigiri" on the menu. After college, I finally realized "ahi" was actually Hawaiian and not Japanese. My family celebrated American holidays like Thanksgiving and Christmas (the Christian way) but made homemade mochi and ozoni for New Year's.

As I've grown up, I've learned to accept that there is no wrong way to "be Japanese." To one person, my Japanese might sound slow and awkward, while to another, I might be the very image of a Japanese woman. In the end, I am my own unique collection of experiences from both here and there.



More about *Satomi and the Sound*:  
[satomiandthesound.com](http://satomiandthesound.com)

Contact: [hokampmusic@gmail.com](mailto:hokampmusic@gmail.com)

試験の後、聴解の難しさでまた失敗する不安を夫に伝えた時、彼は「大丈夫だよ!NIに合格したら、何をしようか。」と優しい言葉をかけてくれました。夫の前向きな考え方は正しいと思います。なぜなら、新しい言葉や表現や諺などを学ぶことは、私なりの喜びだからです。私の日本語学習の楽しみと夢はまだまだ続きます。

## ALT on the JET Program UNT Alumnus Gavynn Sanchez



I currently work at 2 elementary schools and one kindergarten in the rural town of Kimino in northern Wakayama prefecture. My elementary schools are incredibly different from each other. One is the largest school in town with about 150 students in total and the other the smallest

with 19 kids total. At the larger school I consider my experience to be the standard for an ALT, I teach average-sized classes with my largest being 5th grade with 33 students. At that school my lessons are very streamlined and most of my contributions to the lessons in class are the warm-ups I conduct with my students. Across most of my classes I have the usual three questions about the day of the week, date, and weather, but I put my own spin on things by doing what I call 'Challenge Time' where I will call on students with a more challenging question about recently learned grammar or vocabulary topics.

I've been incorporating a method I learned at an ALT conference in Tanabe City where I will give my students a topic and ask them to name 5. For example, right now in my 5th grade class we are doing restaurant orders, so before we learned the actual grammar for it I would ask a random student to name 5 drinks or 5 foods, but they weren't allowed to use Japanese food. For my 6th graders I make it more challenging by keeping the same topic but decreasing the number as we proceed, the first person would name 5, the next would name 4, and so on rather than having them name 5 and switching the topic. The kids are very receptive to my challenges, and it makes class a much more enjoyable experience most of the time, of course the randomness of it manifests its own issues within the kids. I'm trying to make adjustments as needed so it errs on the side of fun rather than stressful while still being educationally enriching for everyone, so my challenges are still very much in the developmental phase.

At my smaller school, however, I don't get to incorporate this method since my largest class there has 5 students. The benefit of small classes is that I am able to build a better connection with each of my students on an individual level so the questions I pose to them are more tailored to their interests. My 3rd graders are currently working on expressing interests using the question "Do you like OO" so I will ask them questions like "Do you like Minecraft?" or "Do you like Labubu?". That helps keep them engaged for the duration of class.

My weekly kindergarten classes are completely different. The kids there are still learning Japanese so the goal of the classes there is to remember at least one English word by the end of class through games and songs. The youngest kids really enjoy English class and it's so much fun working with them, I wish I could visit them more often than once a week though.

Their excitement upon seeing me is second to none, it's always something I look forward to. Sometimes I'll even visit the kindergarten during my down time in between classes to interact with the kiddos between visits. I think my reputation as the funny teacher in town is heavily attributed to the whimsy I try to share with the kids at school, my twice weekly visits to after school care, and town events to the point that some teachers have likened me to an idol, and I think that's pretty funny.



## JTAT 新会員のご挨拶

### サザンメソジスト大学 (SMU) 根岸 慎



テキサス日本語教師会の皆様、はじめまして。10月に行われたTFLAでは、一部の先生にはお目にかかることができました。今年から新たにJTATに加入した、根岸慎と申します。2025年の秋学期より、ダラスにあるサザンメソジスト大学 (SMU) で日

本語講師を勤めております。ミネソタ州での中高生に日本語を教えるサマーキャンプから始まり、その後アリゾナ州、日本の東京と石川、ワシントン州で日本語を教えてまいりました。ダラスの前は、雨や曇りの天気では有名なワシントン州に住んでいたため、テキサスの天気の良さには大変驚いております。今回、テキサスで教え始めるにあたり、様々な知り合いの先生方からテキサス州の日本との強いつながりとJTATの活発さについて伺いました。それを象徴するかのように、引っ越して間もない秋に開催された日米協会主催のお月見祭りでのボランティアとして参加し、日本に興味を持つ方々と間近に交流することができました。また、TFLAではテキサス州とオクラホマ州で活躍される先生方の様々な取り組みを直接伺うことができました。今後、このような活発さの一端を私も担うことができればと考えております。最後になりますが、SMUでのイベントをご案内いたします。2026年2月から3月にかけて、SMU外国語学部主催の[国際映画祭](#)を開催いたします。期間中は、日本映画を含め、毎週数本の映画を上映する予定です。SMU学外の方にも無料でご参加いただけます。平日の開催となりますが、お近くにお越しの際は、ぜひご参加ください。今後ともどうぞよろしく願いいたします。なお、趣味でピクニックボールをしております。どこかのコートでもお目にかかれましたら幸いです。

## JTAT 新会員のご挨拶

### リチャードソン高校 花木 優芽実



はじめまして、新会員の花木優芽実と申します。

5月にテキサスに引っ越してきましたが、その前は、マサチューセッツのウィリアムズ大学で日本語の2年生と3年生を教えていました。

今年の夏から、リチャードソン高校で、ボランティアしており、学生の会話練習やライティングのチェックなどをサポートしています。

先日は文化祭に向けて、学生の能のパフォーマンスの準備をお手伝いしました。

能に使われる難しい日本語をほぼ完璧に覚える学生を見て感動しましたし、クラスメートと楽しそうに練習する学生の姿を見ることができてよかったです。

また、お手伝いする中で、私自身も能についてより学ぶなど、私も学生から日々学んでいます。

また、10月には、TFLAの学会にも参加させていただきました。AIの効果的な活用方法、中級レベルの学生への日本文学の教え方、日本語学習を長期的に継続できるように必要な支援など、1人では思いつかないような素晴らしいアイデアをみなさん持っていらっやっって本当に勉強になりました。今後もワークショップなどに参加して、新しい知見を取り入れると共に、自身も発信することで日本語教育の活性化に貢献していければと思っております。またワークショップなどでお目にかかるかもしれませんが、これからどうぞよろしく願いいたします。

## JTAT 役員のおすすめ JTAT Officers

### 会長 ギンサー (植田) 里砂

我が家 3 人はそれぞれ新しい物を試すのが好きでホリデーになると新しいレシピを試してみます。その中で、何年か前から気に入ってホリデーごとに作っているものはジンジャービアーです。これはとっても強力な生姜ジュースと呼んでいいと思います。市販のジンジャービアーとは違って本当に生姜の匂いと味がよく、甘味も自分で決められるのでオススメです。

作り方は簡単で皮を剥かずに表面の汚れをのぞいてそのまま生姜をフードプロセッサー又はブレンダーで細かくします。どんな方法でも生姜をつぶすことができれば大丈夫です。つぶした生姜を鍋で水からグツグツと沸騰するまで煮ます。だんだん生姜の匂いが強くなっていくのがわかります。沸騰した時点で火を止めて一晩そのまま置いておきます。翌日 チーズクロスや布巾などで生姜ジュースをこします。生姜の筋がたくさん残りますので、その後布巾を絞るようにして 生姜汁が無駄にならないように最後までしぼるといいです。もう一度沸騰させて砂糖を好きなだけ入れます。飲む時にスパークリングウォーター割って飲むので砂糖は甘すぎるかなと思うほど入れた方がいいかも知れません。その後絞ったライムを入れます。大きな瓶に入れてホリデーの間取って置いて何度も楽しめます！

これは出来上がったジンジャービアーに冷凍のブルーベ



リーを入れたものです。うまく混ぜてこんなに綺麗な色に。ちょっとしたモクテイルです。お楽しみください！

#### レシピ:

生姜 1ポンドから1.5ポンド  
砂糖 適量  
ライム 6コ  
水 目安6カップ

### 副会長 井上 とも子

今回の私のおすすめは「具たくさん焼きおにぎり」です。



我が家の高校生男子は、家の中で顔を合わせると高確率で「お腹がすいた」というので、土曜日の朝には焼きおにぎりを大量に作るようになりました。とにかく、炊飯器に残っているご飯を全部使い切る量と決めています。炊飯器に残っているご飯と、その日に冷蔵庫に残っている食材で、おにぎりの内容が決まります。作ってみたのは...

- 焼き鮭&わけぎ
- シーチキン&わけぎ
- スパム&ほうれん草
- シイタケと人参
- ニラ&炒り卵
- キムチ&コーン
- さつま揚げ&菜の花
- 天ぷら
- カレー

...などなど、冷蔵庫で余っているもの、何でも OK です。



おにぎりを握りながら表面に胡麻油をつけて、オーブンの下の段で、時間をかけて両面コンガリ焼きます。焼きあがったらお好みのお醤油をまんべんなくかけて、最後に七味唐辛子をふりかけたら、できあがりです。私のお気に入り、キッコーマンしぼりたて生しょうゆと、地元茨城の七福来です。



ご飯+野菜+魚と、栄養のバランスもよさそうです(気分だけかもしれませんが...)。焼きおにぎりの具材のアイデア、「これはおいしい」というものがあったら、ぜひ教えてください。

## 副会長 市川 美和子

今回の私のおすすめは「黒にんにく」です。黒にんにくを毎日少量ずつ摂取することで、疲労回復、アンチエイジング、睡眠の改善、血液サラサラ効果、免疫力向上、美肌効果などが期待できます。これらの効果は、黒にんにくに含まれるS-アリルシス테인、シクロアリイン、アルギニン、GABA、ポリフェノールといった成分によるものだと言われています。

今学期が始まる頃、知り合いの方から黒にんにくをいただきました。その時、「炊飯器ににんにく25~30個をペーパータオルで包むようにして入れ、2週間、保温しておけば、出来上がり。冷ました後は、冷蔵庫で保存。美味しく食べすぎないように、一日三片まで。」と作り方、食べ方も教えていただきました。



聞いた通りにやってみたところ、私でも簡単に作れました。古い炊飯器(写真)を黒ニンニク専用の炊飯器にして、家の外に置いて作っています。古い炊飯器ですが、まだまだ使えます!ご近所から「臭い」の苦情は、まだありません。電気代は、知らない方が心臓にいいかと思い、チェックしていません。ネットに入ったにんにくは大きさや形がそろっていいと思いますが、不揃いでもまとめ買いで安く購入するのでもいいと思います。

これまで、100個ほど作りました。子供たちには、「No, Thank you.」と言われてしまいましたが、「いつも元気でいてほしい」先生方や友人にお配りしています。「効果あり」と言ってくれる方には、定期的にお届けしています。私も「黒ニンニク」のおかげで、特に忙しかった今学期も頑張れたと思っています!ぜひ、お試しください。

参照サイト:

[黒にんにくの驚くべき効果 | 成分や食べ方もご紹介!](#)

[黒にんにくの驚くべき効能・黒にんにくの作り方は?・](#)

[黒にんにくの保存方法](#)

## 「副会長のすすめ」

2024年1月より、副会長を務めさせていただきました。当初は、自分に務まるのかと不安もありましたが、役員や理事の先生方の温かいご支援とご協力のおかげで、無事に二年間の任期を終えることができました。JTAT、AATJ、Japan Foundation、日本領事館、日米協会、日本人会の皆様にも多大なご支援を賜り、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

学期中は講師、コーディネーター、学生クラブのアドバイザーとして多忙な日々を過ごしておりますが、副会長としての主な担当は「リーダーシップ・ニュースレター・ウェブサイト」であり、大学の長期休暇中に集中して取り組むことができたため、大変助かりました。今後、任務の引継ぎ後も理事としてお役に立てれば光栄です。

やりがいがあり、他の役員の方との協働を通じて、新しい視点やネットワークを広げることができる有意義な経験でした。ぜひ、大学の先生方にも副会長の役をおすすめしたいと思います。

## 会計 アンジェラ・ハリス

### 手作り生キャラメル

これは、私の母が昔からクリスマスに作ってくれたお菓子です。柔らかくて甘すぎなくてとてもおいしいです。混ぜるのに少し時間はかかりますが、作り方は意外と簡単です。(混ぜる時は映画やオーディオブックを楽しみながらおすすめです!)

材料

- バター.....1/2 カップ
- 砂糖.....1 カップ
- Karo のコーンシロップ(青いラベル) ...3/4 カップ
- クリーム.....1 カップ
- (日本語の単語はありませんが、私が使うのは英語でいう Half-and-half(クリームが半分、牛乳が半分の物です。アメリカのスーパーでは、たいてい乳製品売り場にありますが。)
- バニラエキス.....小さじ 1/2



## 使うもの

- 大きめの鍋
- 調理へら
- 四角のケーキ型（21センチくらいのサイズ）
- ワックスペーパー（キャラメルを包むために）

## 作り方

1. ケーキ型に軽くバターを塗ります。
2. 大きい鍋に、バター、砂糖、コーンシロップ、そしてクリームを半分を入れます。
3. ゆっくり混ぜながら中火で熱します。
4. 沸騰したら、クリームのもう半分を入れます。
5. 45分くらい、絶えずゆっくりと混ぜ続けます。
  - 混ぜ続けると、色は少しずつ茶色っぽくなって、泡も大きくなります。
  - しばらくすると、とろみが出て、キャラメルは液体からちょっと固体っぽくなってきます。
  - 混ぜた時に、キャラメルはすぐに流れないで、鍋の底がちょっと見える状態になったら、もうすぐ煮詰め終わりです。煮過ぎたらとても固くなって、食べられなくなってしまいますので、気を付けてください。私はよく、とろみが出始めたら、へらからキャラメルを皿に一滴落として、冷めるのを一分くらい待って、指で固さを確認しますが、大変熱いですので十分気を付けて下さい。
6. キャラメルが煮詰め終わったら、鍋を火からおろして、バニラを混ぜます。
7. キャラメルを型に流します。大変熱いですので気を付けてください。
8. 1～2時間粗熱をとってから、ナイフでキャラメルを一口サイズに切ります
9. ワックスペーパーを15×10センチの四角に切って、キャラメルを包みます。



## 書記 福重 佐知子

近ごろ、動物性たんぱく質を少し控え、豆腐などの植物性たんぱく質に置き換える食生活を家族で少しずつ取り入れています。健康面では、心臓病や脳卒中、一部のがんなどの慢性疾患のリスクを下げられたらという思いがあり、また環境への負担も少しでも軽くできたらと考えています。

最近よく作っているのは麻婆豆腐と麻婆茄子豆腐です。下のレシピを参考にしています。

麻婆豆腐はこちら：

<https://delishkitchen.tv/recipes/194117017215698001>

私はふだん木綿豆腐を使っていますが、絹ごしなど、お好みのかたさの豆腐でお作りいただけます。

麻婆茄子豆腐はこちら：

<https://delishkitchen.tv/recipes/449849325132973075>

茄子は輪切りにするのが私の好みですが、切り方はもちろんお好みでどうぞ。

そして、最近庭で“バジル畑”が育ってきたこともあり、バジルを使った料理がぐんと増えました。夫には「そろそろプランターをもう少し整えては？」と言われるのですが、朝コーヒーを飲みながら、ミツバチやクマバチが花粉を集めている姿を見るのが楽しくて、つい手を入れずに見守っています。

ちなみに、バジルには蚊除けの効果があると言われていいます。ちょっと得した気分になります。

バジルを食べることに、実はたくさんのメリットがあります。

- ビタミンKや抗酸化物質が豊富で、体の健康維持に役立つ
- 胃腸の調子を整え、消化を助けると言われている
- 抗炎症作用が期待され、体の炎症を抑える助けになる
- 香り成分にリラックス効果があり、ストレス緩和にもつながる

身近な食材でも、体に優しい働きがいろいろあることを知ると、毎日の料理がまたひとつ楽しくなる気がします。

今後も、小さなことから家族で取り入れていけたらと思っています。

## 役員選挙結果

JTAT 会長 ギンサー (植田) 里砂

JTAT 会員の皆様、役員選挙にご協力ありがとうございました。また、選挙委員会 委員長の秋元先生(スカイライン高校, グラス学区)をはじめ、委員のワー先生(テキサス A&M 大学)、尾崎先生(ライス大学) 大変お疲れ様でした。選挙委員会の尽力にて、2026年度も満期となった全ての役員が新たに選ばれました。

佐野 僚亮 先生(テキサス大学)と鈴木 真美子(ライス大学) 両先生が大学、高校兼任で副会長をに就任されます。両先生は高校の副会長担当である仕事内容と大学の副会長が担当の仕事を協力し合って進められます。

書記には壽(そう) 智子(さとこ) 先生(ベルエア高校, ヒューストン学区) が就任なさいます。

来年度より新たなポジションである Board Member at Large に 松田 千春 先生(テキサス大学サンアントニオ校)が就任されます。

市川 美和子 先生(ノーステキサス大学)、井上ベイカーとも子 先生(モートンランチ高校、ケーティ学区)の両先生が承認を受け理事として活躍して下さいます。

新たな役職を務められる先生方おめでとうございます。会計であるハリス先生(ノーステキサス大学)と私、会長、ギンサー(セントエドワーズ大学)と共に一同で JTAT の運営を務めてまいります。皆様の続けてのご協力とご支援をよろしくお願い致します。

## 編集後記

JTAT 副会長 市川 美和子

テキサス日本語教師会、関係者の皆様

年末を迎え、何かとお忙しい時期かと存じますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。JTAT 副会長として、今回で四回目となるニュースレターを編集いたしました。

今回のニュースレターは、これまで以上に多くの方々にご協力いただきました。JET、JASGA、FWJS、JASH の代表の皆様、大学・高校の先生方、大学卒業生、そして JTAT 新会員の先生方が、快く記事をご執筆くださいました。また、「年間行事アンケート」にご協力いただいた先生方には、日頃のご活躍を共有していただきました。今後、先生方の交流や情報交換にお役立ていただければ幸いです。お忙しい中ご協力くださった皆様に、心より感謝申し上げます。

さらに、今回も役員の方々に多大なご協力をいただきました。ギンサー先生には「会長のご挨拶」や「役員選挙結果」を、役員の方全員には「役員からのご報告とおすすめ」を書いていただきました。この二年間にわたり役員・理事として JTAT の活動を支えてくださった先生方に、厚く御礼申し上げます。

JTAT ニュースレターを通じて、先生方や関係者の皆様方が日本語学習者やコミュニティのために行っている活動を広く伝え、記録として残すことができれば幸いです。

年末に向けてご多忙のことと存じますが、どうぞご健康にご留意のうえ、ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。良き新年をお迎えください。

テキサス日本語教師会副会長  
ニュースレター担当  
ノーステキサス大学講師  
市川 美和子



with the UNT JSA Officers